

坂田聡教授 略年譜

年 譜

〔経歴〕

- 一九五三年 二月一九日 東京都北区に生まれる
- 一九七二年 三月 東京都立竹早高等学校卒業
- 一九七三年 四月 中央大学文学部史学科国史学専攻入学
- 一九七七年 三月 中央大学文学部史学科国史学専攻卒業
- 一九七七年 四月 中央大学大学院文学研究科国史学専攻博士前期課程入学
- 一九七九年 三月 中央大学大学院文学研究科国史学専攻博士前期課程修了
- 一九七九年 四月 神奈川県立伊勢原高等学校（定時制課程）教諭（一九九一年三月）
- 一九七九年 二月 中央史学会評議員（～現在）
- 一九八二年 四月 中央大学大学院文学研究科国史学専攻博士後期課程入学
- 一九八五年 三月 中央大学大学院文学研究科国史学専攻博士後期課程単位取得退学
- 一九八七年 四月 中央大学文学部非常勤講師（～一九九一年三月）
- 一九九一年 四月 函館大学商学部専任講師（～一九九四年三月）
- 一九九四年 四月 函館大学商学部助教（～一九九八年三月）

- 一九九八年 三月
 中央大学より博士（史学）の学位を授与される
 一九九八年 四月
 中央大学文学部助教（一〇〇一年三月）
 一九九八年 四月
 中央史学会理事（一現在）
 一九九九年 六月
 歴史学研究会委員（二〇〇一年五月）
 一九九九年一〇月
 大阪市立大学非常勤講師（集中講義）（二〇〇〇年三月）
 二〇〇一年 四月
 中央大学文学部教授（二〇二四年三月）
 二〇〇一年一〇月
 成蹊大学文学部非常勤講師（二〇〇二年三月）
 二〇〇三年 七月
 日本歴史学協会委員（二〇一八年六月）
 二〇〇三年一〇月
 成蹊大学文学部非常勤講師（二〇〇四年三月）
 二〇〇四年一二月
 ジェンダー史学会理事（二〇一〇年九月）
 二〇〇五年 四月
 日本古文書学会評議員（一現在）
 二〇〇五年 四月
 東洋大学大学院文学研究科非常勤講師（二〇〇七年三月）
 二〇〇八年 四月
 明治大学大学院文学研究科非常勤講師（二〇〇九年三月）
 二〇〇九年一〇月
 明治大学文学部非常勤講師（二〇一〇年三月）
 二〇〇九年一〇月
 中央大学文学部学部長補佐（二〇一一年三月）
 二〇一一年 四月
 中央大学杉並高等学校校長（二〇一五年三月）
 二〇一一年 四月
 中央大学評議員（職務上）（二〇一五年三月）
 二〇一二年 六月
 比較家族史学会理事（一現在）
 二〇一五年 五月
 中央大学評議員（選任）（二〇一九年四月）
 二〇一九年一〇月
 中央大学商議員（二〇二三年一〇月）
 二〇二〇年 四月
 中央史学会会長（二〇二四年三月）

業 績

〔單著〕

- 一九九七年 一月 『日本中世の氏・家・村』 校倉書房
二〇〇六年 四月 『苗字と名前の歴史』 吉川弘文館
二〇一一年一〇月 『家と村社会の成立——中近世移行期論の射程——』 高志書院

〔共著〕

- 二〇〇二年一二月 『村の戦争と平和』（『日本の中世』一二卷） 共著者 榎原雅治・稲葉継陽 中央公論新社
二〇一四年 五月 『民衆と天皇』 共著者 吉岡拓 高志書院

〔編著〕

- 二〇〇二年 八月 『家族と社会』（『日本家族史論集』四卷） 吉川弘文館
二〇〇三年 四月 『家族と住居・地域』（『日本家族史論集』一二卷） 吉川弘文館
二〇〇九年一二月 『禁裏領山国荘』 高志書院
二〇二〇年一二月 『古文書の伝来と歴史の創造——由緒論から読み解く山国文書の世界——』 高志書院

〔論文〕

* 分担執筆を含む。

- 一九八一年 三月 「鎌倉末期葛川の荘民構成について」『中央史学』四号

坂田聡教授 略年譜

- 一九八二年 六月 「山門公人と中世村落」『ヒストリア』九五号
- 一九八四年 一月 「中世村落における親族結合」『日本史研究』二五七号
- 一九八五年 三月 「中世在村寺院の村堂化の過程と存地住民の動向について」『仏教史学研究』二七編二号
- 一九八五年 二月 「中世村落共同体の構造とその変化について」『歴史評論』四二八号
- 一九八六年 九月 「中世村落史研究と人的結合関係論」『新しい歴史学のために』一八四号
- 一九八九年 一月 「中世村落におけるイエと女性」『峰岸純夫他編「家と女性」(『シリーズ家族史』四卷)三省堂
- 一九八九年 八月 「中世後期百姓の名字・イエ・イエ結合」前近代女性史研究会編『家族と女性の歴史古代・中世』吉川弘文館
- 一九八九年 一〇月 「中世村落の構造と家」『歴史学研究』五九九号
- 一九九〇年 八月 「山村と漁村」峰岸純夫他編『日本村落史講座』二卷、雄山閣出版
- 一九九〇年 九月 「氏連合的村落から家連合的村落へ」『歴史と地理』四二一号
- 一九九三年 八月 「中世末く近世前期百姓の同族組織と村落構造」『史学雑誌』一〇二編八号
- 一九九四年 三月 「中世の家と女性」網野善彦他編『岩波講座日本通史』八卷(中世二)
- 一九九四年 二月 「南北朝内乱期の村落間相論と村の自力」『経済学論纂(中央大学経済学部)』三五卷四号
- 一九九六年 三月 「中世後期の家と村社会」岩本由輝・大藤修編『家族と地域社会』(『シリーズ比較家族』五卷)
- 一九九九年 三月 「中世後期村落における古老百姓と神主職」『中央史学』二二二号
- 二〇〇〇年 一月 「農村・山村・漁村」峰岸純夫他編『今日の古文書学』三卷、雄山閣出版
- 二〇〇〇年 三月 「中世百姓の人名と村社会——近江国菅浦の実例を中心に——」『紀要(中央大学文学部)』史学・四五号
- 二〇〇三年 三月 「中世後期く近世前期の家・家格・由緒」『歴史評論』六三五号
- 二〇〇三年 五月 「戦国期土豪層の婚姻と相続」峰岸純夫編『日本中世史の再発見』吉川弘文館

- 二〇〇六年 七月 「一揆と一味同心」 福田アジオ編 『結社の世界史』 一卷（結衆・結社の日本史） 山川出版社
- 二〇〇七年 三月 「丹波国山国地域における宮座の構造と村落類型」 『中央史学』 三〇号
- 二〇〇九年 二月 「由緒書と偽文書」 坂田聡編 『禁裏領山国荘』 高志書院
- 二〇一六年 六月 「家論から見た一四世紀」 中島圭一編 『一四世紀の歴史学』 高志書院
- 二〇一六年 九月 「戦国期畿内・近国の百姓と家」 加藤彰彦他編 『家と共同性』 日本経済評論社
- 二〇一六年 一〇月 「中世後期における村の文書とリテラシー」 『新しい歴史学のために』 二八九号
- 二〇一九年 三月 「中近世移行期の在地社会と文書」 『紀要（中央大学文学部）』 史学・六四号
- 二〇二〇年 二月 「黒田宮村西家の家譜・由緒と「常照寺一件」」 坂田聡編 『古文書の伝来と歴史の創造』 高志書院
- 二〇二三年 六月 「戦国期山国本郷地域における名体制と名主」 『日本歴史』 九〇二号

〔書評・新刊紹介〕

- 一九八五年 九月 「書評 三浦圭一著『中世民衆生活史の研究』」 『歴史学研究』 五四五号
- 一九九二年 三月 「書評 服藤早苗著『家成立史の研究』」 『歴史評論』 五〇三号
- 一九九三年 一月 「書評 伊藤正敏著『中世後期の村落』」 『史学雑誌』 一〇二編一号
- 一九九六年 九月 「書評 網野善彦著『日本中世史科学の課題』」 『記録と史料』 七号
- 一九九八年 一月 「書評 蔵持重裕著『日本中世村落社会史の研究』」 『歴史学研究』 七〇六号
- 二〇〇〇年 八月 「史料・文献紹介 早稲田大学大学院海老澤衷ゼミ『紀伊国鞆淵荘地域総合調査』」 『歴史学研
究』 七三九号
- 二〇〇〇年 一月 「史料・文献紹介 山陰加春夫編『きのくに荘園の世界』（上巻）」 『歴史学研究』 七四三号
- 二〇〇一年 三月 「書評 島田次郎著『荘園制と中世村落』」 『中央史学』 二六号
- 二〇〇五年 三月 「書評 鈴木国弘著『日本中世の私戦世界と親族』」 『歴史評論』 六五九号

- 二〇〇八年 六月 「書評と紹介 藏持重裕著『中世村落の形成と村社会』」『日本歴史』七二二号
 二〇〇九年 六月 「新刊紹介 菅原正子著『日本人の生活文化』」『史学雑誌』一一八編六号
 二〇一一年一〇月 「新刊紹介 総合女性史研究会編『時代を生きた女性たち』」『ジェンダー史学』七号
 二〇一四年 八月 「書評 大山喬平著『日本中世のムラと神々』」『日本史研究』六二四号
 二〇一八年一二月 「書評 春田直紀編『中世地下文書の世界』」『古文書研究』八六号
 二〇一九年一〇月 「書評 大山喬平・三枝暁子編『古代・中世の地域社会』」『史学雑誌』一二八編一〇号
 二〇一九年一二月 「書評 藪部寿樹『日本中世村落文書の研究』」『ヒストリア』二七七号
 二〇二二年 三月 「新刊紹介 西谷正浩著『中世は核家族だったか』」『比較家族史研究』三六号

〔辞典〕

- 一九九三年 二月 「葛川」の一項目 網野善彦他編『日本史大事典』二卷、平凡社
 一九九三年 五月 「襲名」の一項目 網野善彦他編『日本史大事典』三卷、平凡社
 一九九四年 二月 「屋号」、「山国荘」の二項目 網野善彦他編『日本史大事典』六卷、平凡社
 一九九四年一二月 「家と個人」、「名前と系図」の二項目 佐藤和彦他編『日本中世史研究事典』東京堂
 一九九六年 六月 「宮座」、「垣内」の二項目 比較家族史学会編『事典・家族』弘文堂
 二〇〇〇年 七月 「字」、「姻族」、「乙名」、「葛川」、「久多荘」の五項目 『日本史大事典』一巻、小学館
 二〇〇〇年一〇月 「寺庵」、「親族」の二項目 『日本史大事典』一巻、小学館
 二〇〇一年 三月 「名」、「明王院文書」、「山国荘」、「分割相続」の四項目 『日本史大事典』三巻、小学館
 二〇〇三年 一月 「家産・家財」、「家名」の二項目 尾形勇他編『歴史学事典』一〇巻（身分と共同体）
 二〇〇三年一二月 「坂田聡『日本中世の氏・家・村』、仲村研『荘園支配構造の研究』等五項目 黒田日出男他編『日本史文献事典』弘文堂

- 二〇〇八年 一月 「氏名」、「名字」の二項目 黒田弘子他編『日本女性史大辞典』吉川弘文館
 二〇一五年 一月 「第一章 学説史 日本古代・中世史」 比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂
 二〇一六年 一〇月 「氏」、「苗字」の二項目 木村茂光他編『日本生活史辞典』吉川弘文館

〔評論・その他〕

- 一九八五年 五月 「一九八四年度日本史研究会大会 中世史部会共同研究報告批判」『日本史研究』二七三号
 一九八九年 五月 「定時制教育と民衆史研究」『中世内乱史研究』九号
 一九九三年 五月 「一九九二年の歴史学会・回顧と展望」『史学雑誌』一〇二編五号
 一九九四年 八月 「百姓の家と村の成立」 勝保鎮夫・藤木久志編『家・村・領主』（朝日百科日本の歴史別冊『歴史を読みなおす』一三） 朝日新聞社
 一九九八年 二月 「一九九八年度歴史学研究会大会 中世史部会報告批判」『歴史学研究』七〇八号
 二〇〇二年 五月 「二〇〇一年の歴史学界・回顧と展望」『史学雑誌』一一一編五号
 二〇〇三年 三月 「峰岸純夫先生の古稀を祝う」『中央史学』二六号
 二〇〇三年 三月 「峰岸純夫先生のこと」『紀要（中央大学文学部）』史学・四八号
 二〇〇四年 三月 「中世女性の人名と姓・苗字」『総合女性史研究』二二二号
 二〇〇六年 一月 「丹波国山国荘の総合的研究」『日本歴史』六九二号
 二〇〇六年 五月 「中世の村をどう教えるか」『歴史地理教育』六九九号
 二〇〇六年 八月 「家族の歴史を探る——家族の過去・現在・未来——」中央大学文学部編『恋愛・家族そして未来』

- 二〇〇七年 一月 「家制度の起源を探る——転換期としての戦国時代——」『青少年問題』六二五号
 二〇〇八年 二月 「特集 名字と名前」（監修・坂田聡）リコー三愛グループ『三愛会会誌』一四二号

- 二〇〇九年 四月 「戦国女性の姓・苗字・名」 『歴史読本』二〇〇九年四月号（二〇一二年一〇月 歴史読本編集
部編『戦国大名と政略結婚』 新人物文庫に転載）
- 二〇一一年 七月 「脇田晴子氏の業績と研究の軌跡をめぐって」 『女性史学』二一〇号
- 二〇一一年 二月 「二〇一一年度歴史学研究会大会中世史部会報告批判」 『歴史学研究』八八七号
- 二〇一二年 一月 「丹波国山国荘地域の調査をめぐって——古文書の整理・保存と研究のはざままで——」 『日本史
研究』五九三号
- 二〇一三年 五月 「丹波国山国荘地域の現地調査・その成果と課題」 『民衆史研究』八五号
- 二〇一三年 九月 「家名・苗字・氏」 姫岡とし子・久留島典子・小野仁美編 『社会』はどう作られるか？——家
族・制度・文化』（「ひと」から問うジェンダーの世界史）二巻） 大阪大学出版会

〔口頭発表〕

- 一九七八年 一月 「中世初期における農民闘争について」 中央史学会第三回大会
- 一九八〇年 六月 「鎌倉末期葛川の荘民構成について」 中央史学会第五回大会
- 一九八五年 七月 「中世村落共同体の構造とその変化について」 歴史科学協議会第一九回大会
- 一九八五年 一月 「中世村落におけるイエ」 比較家族史学会第八回研究大会
- 一九八九年 五月 「中世村落の構造と氏・家」 歴史学研究会一九八九年度大会
- 一九九〇年 六月 「中世の古老百姓と鎮守神主」 中央史学会第一五回大会
- 一九九一年 一〇月 「中世末く近世前期百姓の同族組織と婚姻関係」 日本古文書学会第二四回大会
- 二〇〇二年 九月 「中世後期く近世前期の家・家格・由緒」 歴史科学協議会第三六回大会
- 二〇〇三年 三月 「中世女性の人名と姓・苗字」 総合女性史研究会二〇〇二年度大会
- 二〇〇三年 二月 「中世後期く近世前期における宮座の構造と村落」 国立歴史民俗博物館共同研究「現代の宮座の

総合的研究および宮座情報データベースの構築」

- 二〇〇八年 八月 「由緒書と偽文書」 山国科研究会二〇〇八年度第一回研究会
二〇一五年 六月 「戦国期畿内・近国の百姓と家」 比較家族史学会第五七回研究大会
二〇二〇年 三月 「黒田宮村西家の家譜と由緒」 山国科研究会二〇一九年度第三回研究会
二〇二一年二月 「中世後期山国荘における上層百姓のリテラシー」 山国科研究会二〇二一年度第四回研究会
二〇二三年 六月 「戦国期〜近世黒田地域における年寄百姓と名主身分」 山国科研究会二〇二三年度第一回研究会

【学術講演】

- 二〇〇一年一〇月 「歴史学にとっての「近代」 中央大学文学部創立五〇周年記念シンポジウム・「真理」の崩壊を
超えて」
二〇〇二年 五月 「中世の家と女性」かわさき市民アカデミー二〇〇二年度前期・日本歴史コース
二〇〇四年 九月 「中世民衆の家と住居——「社会システムとしての家」と「住居としての家」」朝霞市博物館歴史
講座
二〇〇五年一月 「家族の歴史を探る——家族の過去・現在・そして未来」読売新聞・中央大学文学部連続公開講
座「恋愛、家族、そして未来」第九回
二〇一二年二月 「丹波国山国荘地域の現地調査・その成果と課題」民衆史研究会二〇一二年度大会シンポジウ
ム・「荘園調査」の現在地」
二〇一六年一二月 「丹波国山国荘地域における現地調査の軌跡」京都歴史研究会（同志社大学人文科学研究所第一
〇研究会）例会
二〇一七年 八月 「室町・戦国時代における百姓のリテラシーについて」第四一回北海道高等学校日本史教育研究

大会

- 二〇一七年二月 「人名・通過儀礼から見た中世民衆のジェンダーと身分差別」 中央大学人権問題講演会
 二〇一九年 六月 「菌部寿樹の中世村落史研究と村落文書論」 中世地下文書研究会シンポジウム・「日本中世の地下社会」
 二〇二二年 三月 「姓から家名へ——日本の家制度と家名の成立過程——」 比較ジェンダー史研究会国際シンポジウム・「アジアジェンダー研究ウエビナーシリーズ」第二回

〔外部の競争的資金獲得状況〕

- 一九八五年 四月～一九八六年 三月 「一四～一六世紀の近江国諸村落における農民結合の実態の具体的分析」 日本学術振興会科学研究費助成事業 奨励研究 (B) 研究代表者 坂田聡
 一九九九年 四月～二〇〇三年 三月 「京都近郊山間村落の総合的研究——丹波国山国荘黒田三カ村の民衆生活に關する史料学的アプローチ——」 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究代表者 坂田聡
 二〇〇五年 四月～二〇〇八年 三月 「中世後期～近世における宮座と同族に關する研究——主に丹波国山国荘地域を例に——」 (日本学術振興会科学研究費補助事業 基盤研究 (C)) 研究代表者 坂田聡
 二〇〇八年 四月～二〇一二年 三月 「室町期～明治維新时期丹波国山国地域における百姓と天皇の關係に關する研究」 日本学術振興会科学研究費補助事業 基盤研究 (B) 研究代表者 坂田聡
 二〇一二年 四月～二〇一六年 三月 「一六～一九世紀大堰川上・中流域地域社会の構造と変容に關する研究」 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究代表者 坂田聡
 二〇一二年 四月～二〇一三年 三月 「丹波国山国荘地域における由緒書と偽文書に關する史料学的研究」 東京大学史料編纂所一般共同研究 研究代表者 坂田聡

- 二〇一三年 四月～二〇一四年 三月 「丹波国山国荘地域における中世文書に関する史料学的研究」 東京大学史料
編纂所一般共同研究 研究代表者 坂田聡
- 二〇一七年 四月～二〇二一年 三月 「中世・近世在地文書の様式・機能の変遷と中世文書群の構造的変容に關する研究」 日本學術振興會科學研究費補助事業 基盤研究(B) 研究代表者 坂田聡
- 二〇一七年一〇月～二〇一八年 九月 「中世後期～近世前期における百姓のリテラシーに関する研究」 公益財団法人三菱財団法人文科學研究助成 研究代表者 坂田聡
- 二〇二一年 四月～二〇二四年 三月 「地域における歴史意識の形成過程に関する研究——由緒關係文書の原本調査を踏まえて——」 日本學術振興會科學研究費助成事業 基盤研究(B) 研究代表者 坂田聡

〔學術貢獻活動〕

一九九五年八月～ 丹波国山国荘地域の古文書調査

〔メディア報道〕

- 一九九八年 二月一〇日 「家族をよむ 古代から近世まで・中」 朝日新聞・夕刊
- 二〇一五年 二月一八日 「夫婦別姓国家賠償訴訟最高裁判決に関するコメント」 フジテレビ「新報道二〇〇一」
- 二〇一九年 一月二八日 「江戸初期 山国地域で世界を語る」 京都新聞
- 二〇一九年 一月三〇日 「京北の旧家に古文書一万五千点」 京都新聞
- 二〇一九年 一月三二日 「アユ漁維持へ有力百姓したたか」 京都新聞
- 二〇一九年 二月 一日 「戦前、広がる昭和の精神主義」 京都新聞
- 二〇一九年 二月一八日 「山国の世界地図「京の知」集成」 京都新聞